

企画展

郷土玩具とその背景

会場：調布市郷土博物館1階展示室

令和7年7月19日(土)～9月15日(月・祝)



調布市郷土博物館

住所：〒182-0026 調布市小島町 3-26-2
開館時間：午前9時～午後4時
休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌平日）
アクセス：京王相模原線 京王多摩川駅下車徒歩4分
電話：042-481-7656

ウェブページ



ウェブページ

<https://www.city.chofu.lg.jp/100200/p073000.html>

X(旧Twitter)

https://x.com/chofu_museum

X(旧 Twitter)



入館無料

写真の玩具（左から）

- ・うそ × 2（亀戸神社）
- ・こけし × 2（蔵王高湯系、鳴子系）
- ・多摩張子（立川）
- ・多摩だるま（あきる野）
- ・土鈴 × 2（京都府法輪寺、調布）
- ・多摩張子（武蔵村山）
- ・赤駒（調布）

企画展 郷土玩具とその背景



うそ (亀戸天神社)

当館が所蔵する加藤文成郷土玩具コレクションから、全国の様々な郷土玩具を紹介しながら、時代とともに郷土玩具が歩んできた道を振り返ります。



蘇民将来 (信濃国分寺)

I 郷土玩具の黎明期

明治時代の初め、まだ「郷土玩具」という言葉が生まれる以前のこと、近代化によって失われていく江戸文化を求め、玩具を収集した人たちがいました。のちの郷土玩具のベースとなった彼らの嗜好や収集活動を紹介します。

II 玩具と信仰

神社で配布されるうそや、疫病除けの蘇民将来など、一見玩具とは思われないものでも郷土玩具と呼ばれることがあります。玩具と信仰の結びつきがどのように見いだされ、重要視されていったのかを解説します。

III 郷土玩具ブーム

郷土玩具は単なる子どもの玩具ではなく、大人向けの商品としての側面が時代とともに強まっていきます。特に1930年代と1950年代の旅行ブームの際に、みやげ物としての需要が高まりました。ここでは1950年代から全国的に知られるようになったこけしを中心に紹介します。

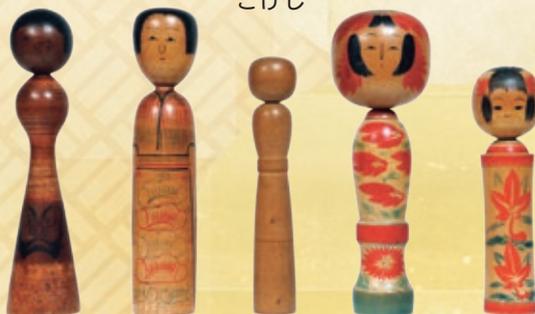
IV 調布の郷土玩具とその背景

調布を代表する郷土玩具として赤駒、土鈴、だるまを取り上げ、それぞれがどのように成立してきたのかを歴史的に振り返ります。



江戸時代の縁日おもちゃ屋 (菊丸画・木版)

こけし



津軽系

木地山系

南部系

蔵王高湯系

鳴子系



七夕馬 (千葉県勝浦)

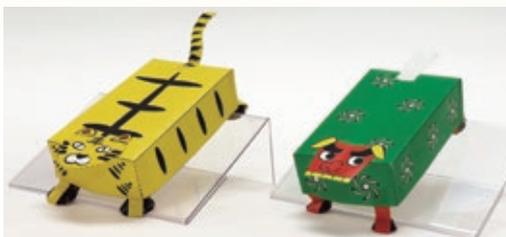
道祖神のワラ馬 (長野県諏訪)

関連イベント

【昔のおもちゃ「ずぼんぼ」をつくってみよう!】

うちわであおぐと飛び上がる昔のおもちゃ「ずぼんぼ」をつくります。
※15分程度でつくれます。

- 開催日 7月21日(月・祝)、8月24日(日)
 受付時間 ①10:00~11:30 ②14:00~15:30 (各日2回実施)
 定員 各時間帯 15名まで
 会場 郷土博物館1階ロビー
 申込 当日直接会場でお申し込みください。
 その他 ハサミを使用します(持ってくる必要はありません)。
 小学生以上推奨



ずぼんぼ
※完成品のイメージです

【展示解説】

担当学芸員が展示解説を行います。

- 日時 7月21日(月・祝)、8月24日(日)
 ①11:30~ ②13:30~ 各回30分程度
 会場 郷土博物館1階展示室
 申込 当日直接会場にお越しください。

